

◆導入経緯と経過

- **公共施設利用の利便の向上**及び高齢者や子どもなどの**移動制約者の通院、買い物等の日常生活支援のため**、平成13年より試行運行を実施し、平成15年より本格運行。
- その後、ルート改正等を経て、令和2年10月1日より、現在の形態で運行している。
- 前回のルート改正から間もなく4年が経過すること、また、現行車両は平成26年7月に購入しており、購入から10年が経過しようとしていることから、**ルート・車両の見直しを行う**。

※過去の改正経緯

平成23年10月

- Aコース:月～土。1日8便。
- Bコース:月、水、金、土。1日5便。
- Cコース:月、火、木、土。1日5便。
- Dコース:火、水、木、金。1日5便。

平成26年7月

- 「曜日運行」から「毎日運行」に変更
- Aコース:1日6便、B～Dコース:1日4便に変更
- ルートの一部改正
- 車両購入
(日野ポンチョ ロングタイプ(31人乗り:運転手含む))

令和2年10月

- ルート等の一部改正
- Aコース:1日5便に変更

令和3年10月

- Bコースの永和駅停留所付近のルートの一部変更

◆ルート等の見直し

- 市民からの要望等を踏まえて検討。
 - これまで市に寄せられた市民からの要望
 - R5に実施した市民会議で出された意見
 - 各コミュニティから寄せられた要望(両回り運行、増便、近隣自治体への乗り入れ等)
- 現状、定常的に発生している遅延に対応するとともに、法令で定められた運転手の休憩時間が確保できるダイヤ編成とする。
- 運行事業者等と随時調整しながら検討を進める。
- 今後、通勤・通学への対応の必要性について検討する。
(朝:7時台、夜:19時台の運行)

◆車両の見直し

- R5に実施した調査結果※から、**車両サイズは現行車両より小型化する。**
- 利便性向上の観点から、**車両台数を2台から4台に拡大。**
- 積み残しが発生しないよう、利用状況から車両サイズを検討する。
- **バリアフリーの観点から、車いす利用者も平等に利用できるよう、車いす対応車両とする。**

※「津島市巡回バス等(公共交通)検討調査報告書」P.91参照

ルートに関する要望(同一内容は1つにまとめている)

	要望	補足
Aコース	西地域防災コミュニティのバス停を復活させて頂きたいです	R2.10.1の改正時に廃止(西愛宕町方面に停留所の新設に伴い、運行時間短縮のため廃止した経緯あり)
	西愛宕町ポリス前にバス停を作ってください	西愛宕町方面に南下することで、1便あたりの所要時間が増える等の理由から、現在の位置に設置することで協議が調った経緯あり(R2)
	Aコースのみ津島市民病院や津島市役所に1度しか立ち寄らない	
	カネスエ津島愛宕店前に停留所を設置してほしい	名鉄バス「愛宕住宅前」停留所から徒歩2分
	マクドナルド橋町店のあたりに停留所を作してほしい	B・C・Dコース「津島駅東」停留所から徒歩7分、名鉄バス「津島サンガーデン」から徒歩4分
	ワークマン愛宕店、ガスト、スギ薬局に行けるよう、ルートを見直し停留所を設置してほしい	西愛宕町方面に南下することで、1便あたりの所要時間が増える等の理由から、現在の位置に設置することで協議が調った経緯あり(R2)
Bコース	Bコース下春日台のバス停を現在利用しているが、足が悪く遠いので、団地の中を通り、奥側(南側)にバス停を設置してほしい	
	安藤病院の近くにふれあいバスのバス停があるといい	Bコース「唐臼北」停留所から徒歩10分、名鉄バス「唐臼住宅前」停留所から徒歩5分
Cコース	葉苅町内には、近くにバス停がないので設置してほしい	葉苅町へのバス停設置を検討するも、道幅が狭く運行することが困難であることを名鉄バスに確認している(R2)
Dコース	神守住宅の北側に住んでいる人から停留所が遠いとの意見あり	
	生涯学習センター東停留所を生涯学習センターに近づけてほしい	

その他の要望

No	要望
1	本数を減らさないでほしい(6本→5本)
2	ヨシヅヤ本店のバス停に屋根を付けてほしい
3	反対回りのコースがほしい
4	バスの車両を小さくしたら経費が安くなるのではないか
5	ふれあいバスの料金を無料にした方が良い
6	学生や社会人が利用できる時間帯であればかなりの収益が見込めると思います
7	ふれあいバスのルート、時間を見直してほしい。生活保護で車に乗れないのに、バスが不便すぎて利用できない。上記が合わなくて利用していない人達の意見を聞いてほしい。 具体例 朝から市役所に来たが、午後の便では保育園のお迎えに間に合わず歩いて帰った。 朝の病院の予約時間に間に合わない。 午後に出かけると帰りのバスがない。等 子育て世帯に活用しやすくしてほしい。
8	ふれあいバスの本数を増やしてほしい

● 巡回バス検討委員会

- 車両の見直しの方向性について説明
- 各コミュニティへ意見照会
- 市民からの要望・意見等を踏まえ、ルートや車両を検討
 - ※随時、道路管理者、警察、運行事業者など関係者と調整
 - ※途中、地域公共交通会議で中間報告予定
- 地域公共交通会議にて協議が調った最終運行計画を説明して終了



● 地域公共交通会議

- 運行計画変更について、地域公共交通会議にて協議



● 運行に向けた準備(R7～R8)

- 運行計画変更の届出、ルート図・時刻表の作成、停留所整備、車両の調達、市民・利用者への周知



● 見直し内容を反映し、運行開始(R8.10～)

※時期については現時点での目安

23人乗り車両を導入した場合(乗客20人想定)

(人)

	月	日数	積み残し発生日数				積み残し発生回数					積み残し人数					
			A	B	C	D	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	
令和5年度実績を用いて試算	4月	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5月	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6月	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7月	27	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	
	8月	27	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	3	3	
	9月	25	0	1	1	0	0	1	1	0	2	0	4	1	0	5	
	10月	27	1	1	0	0	2	1	0	0	3	21	1	0	0	22	
	11月	26	2	0	0	0	11	0	0	0	11	105	0	0	0	105	
	12月	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	1月	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2月	25	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3	0	0	3	
	3月	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	309	3	3	1	2	13	3	1	3	20	126	8	1	4	139		
※校外学習を除く											6	5	1	4	16		

ふれあいバス利用者数の伸び率の平均(H30.R1.R4.R5)107.3%を加味しても、23人乗り車両を導入した場合の積み残し人数は17人(16人×1.073)と大幅な増加はなく、便数が増えることによって分散される可能性もあるため、対応可能であると考えられる。

想定車両では、一般の乗客20人+車いすの方2名が乗車可能。

18人乗り車両を導入した場合(乗客16人想定)

(人)

	月	日数	積み残し発生日数				積み残し発生回数					積み残し人数								
			A	B	C	D	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計				
令和5年度実績を用いて試算	4月	26	2	0	0	0	1	5	0	0	6	3	10	0	0	13				
	5月	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	6月	25	0	0	0	0	0	2	1	0	3	0	2	1	0	3				
	7月	27	0	1	1	0	1	0	1	3	5	1	0	4	5	10				
	8月	27	2	0	1	0	0	3	0	2	5	0	5	0	7	12				
	9月	25	1	1	0	0	0	5	2	0	7	0	10	7	0	17				
	10月	27	1	1	0	0	3	1	2	0	6	26	5	4	0	35				
	11月	26	0	0	0	0	11	0	0	0	11	129	0	0	0	129				
	12月	24	1	0	1	0	0	3	0	1	4	0	7	0	2	9				
	1月	24	0	1	0	0	0	1	3	0	4	0	1	3	0	4				
	2月	25	2	1	0	0	0	3	2	0	5	0	11	3	0	14				
	3月	26	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1				
計	309	9	5	3	0	16	24	11	6	57	159	52	22	14	247					
											※校外学習を除く					11	40	22	14	87

Bコースでの導入は現実的ではないが、A・C・Dコースについて、現状の積み残し人数から見るに、現状1日4便だが、便数を増やして利用者を分散させることができれば、積み残しが発生しない可能性もあり。

想定車両では、一般の乗客16名+車いすの方1名が乗車可能。

10人乗り車両を導入した場合(乗客8人想定)

(人)

	月	日数	積み残し発生日数				積み残し発生回数					積み残し人数				
			A	B	C	D	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
令和5年度実績を用いて試算	4月	26	19	18	19	9	54	67	38	12	171	117	156	69	18	360
	5月	27	17	22	21	13	37	50	54	22	163	67	79	105	24	275
	6月	25	17	19	13	14	31	66	35	21	153	49	139	52	27	267
	7月	27	13	18	14	7	30	49	33	12	124	61	90	62	23	236
	8月	27	20	19	18	8	64	69	43	15	191	124	135	74	31	364
	9月	25	21	20	15	6	45	64	70	8	187	74	132	117	9	332
	10月	27	19	21	20	10	60	63	69	24	216	135	127	109	35	406
	11月	26	16	16	15	10	40	58	33	31	162	217	96	49	53	415
	12月	24	15	21	20	15	33	75	57	37	202	57	156	100	54	367
	1月	24	15	18	20	9	33	57	57	14	161	62	126	99	19	306
	2月	25	12	20	19	10	30	64	61	24	179	39	141	107	40	327
	3月	26	16	19	20	10	39	76	59	21	195	68	130	116	35	349
計	309	200	231	214	121	496	758	609	241	2,104	1,070	1,507	1,059	368	4,004	
※校外学習を除く											869	1,474	1,059	368	3,770	

R5調査では、令和4年度実績を用いて、10人乗り車両も導入可能という結論になっている。
 想定車両では、一般の乗客8名+車いすの方1名が乗車可能だが、助手席や補助席を使用するため、安全上の問題から、一般の乗客が6名とする可能性もあり。
 一般の乗客が6名となると、上記以上に積み残しが発生すると予想される。